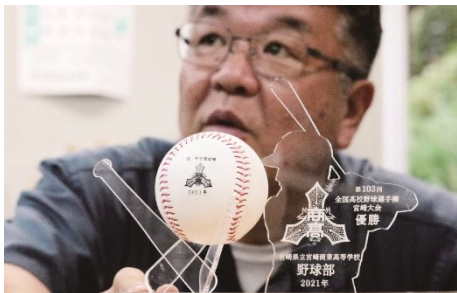


株式会社 新生工業

経営の悩みは相談で克服 ワクワクする仕事に猛進

※2024 年度インタビュー時点

大手カメラメーカーの部品塗装などを手がける宮崎県木城町の新生工業は、経営難に陥ったものの、公的な相談窓口の活用で解決につなげ、成長軌道を描き始めています。創業20年の節目を前に新たな設備投資も検討している芥田恭典社長は「悩みを抱えている経営者は、様々な相談窓口に頼ってみてほしい」と話します。



近年はアクリルスタンドも手がける。「ワクワクするものづくりをしたい」と芥田社長

コロナ禍で協議会へ

私は元々、別の塗装会社の従業員でした。2005年12月、その勤務先が撤退を決めたカメラ部品関連の業務を受け継ぎ、仲間と3人で起業しました。

仕事の幅を広げながら会社を育ててきましたが、コロナ禍では、航空機関連部品の仕事がパッタリとなくなりました。「倒産すればお客さまに多大な迷惑をかける」と危機感を抱えて訪ねたのが、宮崎県中小企業活性化協議会（以下、協議会）です。

協議会の指南を受けて2021年9月、「経営改善計画策定支援（通称・405事業）（※1）」に申し込みました。地元の中小企業診断士の先生と一緒に戦略を練り、同年12月に3か年の経営改善計画書を策定。その過程での先生の分析は、まさに目からウロコが落ちるような“気づき”の連続でした。

（※1）金融支援を伴う本格的な経営改善の取組が必要な中小企業等を対象に、国の認定を受けた支援機関が経営改善計画の策定を支援し、取組を促す事業。所定の費用等の3分の2を、中小企業活性化協議会が負担する。

詳細は<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/saisei/05.html>

宮崎県中小企業活性化協議会

統括責任者 四位 俊昭氏／統括責任者補佐 曾我部 弘一氏



技術力ある企業と実力ある専門家、金融機関が連携して、良い計画を策定・実行できました。製造業が少ない宮崎県において、成長する姿は他の企業の模範にもなり、今後の活躍が期待されます。

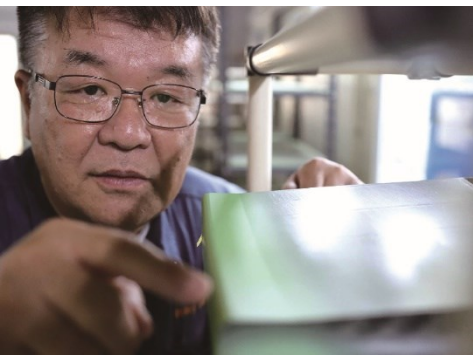
「社長が一人で」を見直し

それまでは、経営に不安はあるものの、どこがどう問題なのかを明確に把握できていませんでした。先生と財務諸表の確認や社員からの聞き取りを進めると、会社運営の問題点があぶり出されました。

その一つが、売上高に対する粗利益率の低さでした。「利益が2%しかない。せめて10%は必要」。見積価格を見直そうと作った社員5人による委員会で、作業時間や原価などをふまえて適正な見積単価を算定すると、社長の私が一人で決めていた価格をかなり超えるものでした。

取引先に提示し、何とか受け入れてもらいましたが、「今までが安すぎた」と気づき、「社長の『牙城』を築いてはいけない」と反省しました。こうした取組を進め、粗利率は約20%にまで改善しています。

5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）を意識し、ホームページ（HP）やSNSでの情報発信も強化しました。



丁寧な加工が評判

従業員に初の「決算手当」

計画開始前は、純利益が700万円の赤字で、累積赤字は3,000万円になっていました。しかし、2023年5月期には黒字転換し、2024年5月期では純利益が2,000万円の黒字に。累積赤字を解消し、会社を設立して以来、初めて税金を納付できました。

この決算ではもう一つ、うれしい“初”がありました。従業員への「決算手当」です。経営改善が

進んだのは、利益を出そうと意識を変えて取り組んでくれた皆のおかげ。「社長、ありがとうございます」「みんな、がんばったー！」と喜ぶ姿を目にして、私自身が一番うれしかったですね。

振り返れば、コロナ禍は経営を立て直す契機になりました。政府の「ゼロゼロ融資（実質無利子・無担保融資）」を受けることができ、その資金で賄う間に改善を進められたからです。



本社・工場

どんなときも笑顔で

当社が直面した困難は、コロナ禍が初めてではありません。2011年の東日本大震災とタイの洪水で大手メーカーが生産を停止した時も、経営が危ぶまれました。その際には、無料で経営相談ができる窓口で助言を得て、金融機関の特別融資を受けられました。

コロナ禍では、国が各県に設置しているよろず支援拠点や協議会を訪ね、難局を乗り切ることができました。心配事がある経営者の方々には、そうした悩みを聞いてくれる公的な支援機関や顧問先、専門家に相談してほしいと思います。行動すればきっと解決の糸口が見つかります。

社員は社長の顔を見ています。私自身が「何とかなるさ」と明るく皆を引っ張る気持ちになったとたん、何とかなりました。どんなときも笑顔でありたいと思います。

省みると、会社が苦しいときには利益率の低い仕事も受けがちですが、そういう時にこそ冷静な判断が求められます。また、経営者自らが現場に入ると日常業務に追われてしまいます。財務分析など全体を俯瞰する意識が大切です。

宮崎の「ものづくり王」へ！

改善には終わりがなく、当社も第2章を考えなくてはなりません。計画、実行、評価、改善というPDCAサイクルを継続し、「100年企業、100人

の雇用、100億円の商い」へ礎を築きたいです。
先を読む目を養うため、宮崎県などが行う産業人材育成プログラム「ひなたMBA」に参加するなどしており、生涯、勉強を続けたいと思っています。

社員が生き生きと働く、人に優しい経営で、さらに事業の幅を広げ、ワクワクするような仕事をしていきます。新生工業に頼めば何でもできる、と言ってもらえる宮崎の「ものづくり王」になりたいです。



金属製品の刻印も手掛ける



代表取締役 芥田 恭典氏

〈新生工業〉

2005年12月設立。従業員は24人。カメラ部品を中心に塗装や印刷、色入れなどを担う。人柄を前面に出した社長の営業も強み。2020年に宮崎県未来成長企業、2024年に宮崎県立地企業、木城町立地企業の認定を受けた。

宮崎県児湯郡木城町大字川原溜水 1622-1。

詳しくはこちら

